

A study about the styles of traditional Japanese Swimming

1K07B027-9

氏名 上野公志

指導教員 主査 寒川恒夫先生 副査 金岡恒治 先生

【諸言】

この研究をしようと思ったきっかけは、まず私自身が幼いころから水泳をやっていて水泳を一筋でやってきました。水泳を本格的に始めると毎日が水泳ことしか考えなくなった。水泳のことを深く知っていくうちに段々と水泳の文化が知りたくなってきた。そのなかで、日本は古くから伝えられた独特の水泳法「日本古流泳法」があることを大学に入ったときの早慶戦で知った。この現在の競泳、水球、シンクロがあるのは日本泳法があったおかげである。そんな伝統と歴史のある日本泳法について研究することにした。

【日本古式泳法とは】

日本で古くから武芸の一つとして伝えられてきた泳法で、古流泳法ともいう。水泳のほか潜水、飛込みや水馬術までも含んでいる。また武芸として、技術とともに精神的なものも合わせた指導方法を持ち、今日まで伝承されてきた。水練や水馬に関する功名話は、鎌倉時代の軍記物語に多く出てくる。泳法が武芸の一つとして研究され、水術という教習体系を整えた流派として確立されるのは、江戸時代初期からである。水術の流派も他の諸武芸同様、家元の継承、技法、心法の伝授、流の尊厳などが伝承された。現在、伝承が認められている流派は12流派あるが、これらはいずれも江戸時代に藩の庇護を受けていた流派である。

【流派】

この日本泳法は、以前、「流派泳法」あるいは「古流泳法」「古式泳法」などと呼ばれていたように、わが国には、各々異なった伝承と特徴を持つ多数の流派が存在し、今も脈々とその流れを継承している。今現在わが国において「流派」を由緒正しく伝承している流派は12流派である。しかも、流派ごとに開発は交わることが一切なく、ひたすらひたすら隠密に研究されてきた。さらに、本流から分流するいわゆる分派も合わせるとするならば、その数90にものぼる。このような流派がいかに生まれたのか疑問に感じるところである。

【競技の概要】

毎年8月に日本泳法大会が行われている。競技内容は、「泳法競技（シニアクラス）」「泳法競技 ジュニアクラス」「団体競技」「支重競技」「横泳ぎ競泳」がある。前記の競技部門のほかには日本泳法大会のもう一つの柱が「資格審査部門」である。昔は一つだけだったが、現在は4つの資格が認定されている。資格審査は、日本泳法各流派の泳法に精通し、日本泳法の保存と普及に実績のある学識経験者によって構成される資格審査委員会により行われている。

【考察】

現在の日本泳法の現状としては、伝統を受け継ぐために生徒数や指導者を増やしているかと思いきや、そうではない。実際は生徒数も、減少傾向ではなく、各地域のマスコミなのでも取り上げられており、周りが思っている以上に注目されていることが分かった。しかし、減少していないといっても、実際には日本泳法について一般世間にはまだまだ知られていないというのが現状である。競泳の活躍により、世間は競泳ばかりに注目が集まってしまう、日本泳法は忘れられてしまったのかもしれない。それでもこの伝統のある日本泳法を一般世間に広めてこの日本泳法の良さをもっとたくさんの人々に、知ってもらいたい

【今後の展望】

近代スポーツである競泳、水球、シンクロナイズドスイミングが今現在の水泳競技では主流となっている。そのような中で日本泳法を一般世間に広めていくことは難しいと思う。日本泳法は全国に各流派がある。それをうまく利用して、地方にあるスイミングプールや、公共の施設で生徒などに日本泳法を知らせることができと思う。その他にも、その地域でイベントなどを開催して、地域との交流をはかるのも一つの手段だと思う。そうすることにより、日本泳法をはじめ競泳、水球、シンクロナイズドスイミングも活性化し、戦後の水泳日本が戻ってくるのではないだろうか。